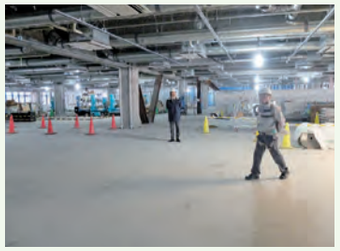
市川市議会議員

石原よしのり 市政報告

自分たちの住むまちで今どのようなことが起こっているのか、市政ではどのようなことが問題となっているのか、なかなか知る機会がないのではないでしょうか。昨年度１年間に本市で話題となった主なできごとや議会での議論についてご報告いたします。

市役所新庁舎に大穴開けて階段設置



▲建設中の新庁舎の階段追加予定箇所

▲完成間近な新庁舎

現在、市役所の新庁舎は、７月の完成に向け工事が進んでいます。

ところが昨年８月、市長が突然、新庁舎の建物完成直後に１階と２階の執務室の間に穴をあけ**中央階段を追加設置する**工事を行い、そのため市民窓口の**開庁が５か月遅れ2021年１月になる**という案を発表しました。階段は、市民を待たせないために必要で、市民と役所の交流を促すのに有効だというのが理由です。

議会でも激しい議論がありました。しかし、階段で１階と２階の行き来が多少便利になるとはいえ、どうしても階段が必要だとは思えません。さらにこの変更には追加工事費や仮庁舎維持経費はもちろん、５か月間の延期により市民に多大な不便や影響が出てきます。そして執務室の面積が減ることから90人分の席を市庁舎外の別の場所に確保することになり毎年の賃料もかかってきます。

昨年末には市議会は階段設置を見送り当初計画通り今年８月に開庁するよう求める決議案を可決しました。しかし、市長は中央階段設置を見直す気はないようです。３月の議会で石原よしのりは階段設置の予算を削る修正動議を提出しましたが、残念ながら修正はかないませんでした。

私は、**追加の階段は設置せず、ワンストップのサービス開始と市民交流スペースの確保をした新庁舎を当初計画通り８月に開庁し、数年後に検証して必要なら他の手直しと合わせて改造すればいい**と思います。拙速に決めることは禍根を残すのではないでしょうか。

みなさんはどう思われますか。中央階段追加工事はまだ始まっていません。ぜひみなさんのご意見を石原よしのりへ、また市役所の「市民意見箱」へお寄せください。

市民意見箱はこちら▶

新型コロナウイルス

▲マスクが品切れに

中国から始まった新型コロナウイルスの感染が世界中に拡散しています。市川市内でも多数の感染者が出たことから、イベントの中止、公共施設の閉館、小中学校の閉鎖などの措置が取られました。市民の間では不安や混乱が広がっています。しかし、過度に恐れることなく適切に予防を心掛けることが重要です。外出から帰ったら**すぐに丁寧に手洗いをし、普段から体調管理をして免疫力を低下させないよう**心掛けていきましょう。

不安がある場合は、新型コロナウイルス感染症に関する相談窓口へ

・市川健康福祉センター（市川保健所）　047-377-1103（平日9:00～17:00）
・市川市　疾病予防課　047-712-8551（平日8:45～20:00）
・時間外の場合は、市川市　あんしんホットダイヤル　0120-241-596（24時間対応）

テスラ車騒動

▲市長用のテスラ車

昨年６月、本市は市長車として１台１千万円以上もする米国テスラ社の高級電気自動車を導入しました。導入直前の新聞報道でその計画を知った市民や議会は驚き、反対の声を上げました。が、市長は議会の反対決議を無視し、直後にテスラ車の導入を強行したのです。これに対し市民の反対の声が市役所に殺到し、新聞・テレビで繰り返し批判的に報道され大騒ぎになったことはご存じのとおりです。

その後も批判がさらに高まったため、結局市長はテスラ車のリース契約解除を余儀なくされ、11月に引き取られていきました。この騒動で市長の評価のみならず、市川市の全国での評判は落ち、さらに行政内部にも混乱と停滞という大きな傷跡を与えてしまいました。

問題は「車の価格」だけではなく、**市民にも議会にも黙って本市の市長車として不適切な大型の高級外車の導入を決め、市民の反対の声が殺到しても、市議会で反対決議を受けても、強行した非民主的な市長の姿勢**です。そして市長の暴走を止められなかった副市長や市役所幹部職員の責任も大きいと思います。

４か月半のテスラ車使用期間中、このテスラ車は市長の通勤以外にはほとんど使われず、当初の目的であった環境面での市民へのPRの効果を果たすこともなかったことが明らかになりました。素直に間違いを認め、再び過ちを繰り返さないよう教訓とすることが重要なのではないでしょうか。

連絡先　市川市議会議員　石原よしのり　〒272-0826 市川市真間4-11-C202　TEL:047-710-0958　FAX:047-710-0959　✉yoshinori.ishihara@gmail.com

自然災害への備え

▲増水した江戸川

昨年、台風15号、19号、21号が各地で大きな被害を出しました。とくに15号では房総半島で建物や樹木の倒壊被害、19号では長野県や東北地方で浸水被害をもたらしました。幸い本市は大きな被害は免れたものの、いろいろな課題が明らかになりました。日常からの防災対策の必要性をみなさんも感じたのではないでしょうか。市も防災情報の伝達、避難所の開設などに課題があることを認識し対策を進めています。

豪雨による真間川水系の氾濫や江戸川堤防決壊そして首都直下型地震は、決して絵空事ではありません。

自宅地域の災害リスクの程度や避難場所、避難所の位置などを知るために、市の発行している**「減災マップ」「水害ハザードマップ」「防災カルテ」**などを確認しておくといいでしょう。これらは市役所の窓口等で配布しています。また市のWebサイトからも見ることができます。

ご家庭でも家の耐震化、家具などの転倒防止対策、最低3日分の水や食糧などの備蓄とともに、家族間の連絡方法や避難の方法を決めておくことが重要です。さらに日ごろからの近所とのお付き合いなども心掛けていただければ安心です。

外環道路完成後の市川

2018年６月に外環道路の千葉区間が開通しました。市民にとって車での交通が便利になり、また並行して走る幹線道路や市街地の交通量が減少し渋滞や事故が減りました。県道市川松戸線（松戸街道）の交通量は約３割減少しました。

▲流れがよくなった松戸街道

しかし一方では、大型車が大量に通過するようになった外環道路周辺の騒音・振動・大気汚染や、車の流れの変化による通学路への交通量の急増など新たな問題も発生しています。また緑化などの環境施設帯の整備もこれからです。安全で快適な道路の実現に取り組んでいきたいと思います。

これからの交際交流のあり方

▲カゼルタのヴェッキア大聖堂

▲来市したエストニア首相

本市は昨年、イタリアのカゼルタ市、エストニアのパルヌ市と相次いで自治体連携協定を結びました。協定内容はカゼルタ市とは観光や文化の分野で、パルヌ市とは電子行政推進の分野での協力です。市長は市川市を外から見る視点が重要だとして国際化の推進を大きな方針としています。将来的には市民交流も進むことでしょうが、市川市は、すでにアメリカ、インドネシア、中国、ドイツ、フランスの都市と姉妹都市、友好都市関係を結んでいます。市川市の国際化について、みなさんはどう思われますか？

市立病院の民営化

▲タムス市川リハビリテーション病院

昨年４月柏井町にある市川市リハビリテーション病院が民営化されました。1998年、市川市が高齢社会に向けて寝たきりの人を作らないという基本理念で74億円の建設費をかけて作った病院です。しかし赤字経営が続き毎年の税金投入を余儀なくされていたことから民間に移譲することになりました。現在は「タムス市川リハビリテーション病院」という名称で、各地に病院や関連事業を経営している医療法人の経営になったのでより充実した医療の提供を期待します。ちなみにリハビリテーション科だけではなく、内科、整形外科、精神科、歯科など一般の方の受診も可能です。

国府台球場改修へ

▲改装工事の始まった国府台球場

国府台運動公園にある野球場では、2022年完成をめざし改修工事が始まりました。人工芝、ナイター照明設備、そしてスタンドの拡充などが行われます。本市は一昨年千葉ロッテマリーンズとフレンドシップシティ協定を締結しました。そのため改修後の国府台球場はマリーンズの二軍の公式戦の球場としても使用されます。市民がプロ野球を間近で観戦できるようになります。野球場に続いて、陸上競技場、ランニングコース、多目的広場など運動公園全体の整備が予定されています。近い将来、国府台公園は市民が誇れる運動公園に変貌することでしょう。

連絡先　市川市議会議員　石原よしのり　〒272-0826 市川市真間4-11-C202　TEL:047-710-0958　FAX:047-710-0959　✉yoshinori.ishihara@gmail.com